The Walt Disney Company

国際労働基準

健康と安全

補足ガイド

2026年3月改訂

目次

I はじめに 3

II 指導原則 5

III Disney 規範 5

IV 用語集 6

V 主要なコンプライアンスベンチマーク 7

V.1 一般的な安全衛生 7
V.2 火災と緊急時の安全 9
V.3 危険物 13
V.4 機械および電気の安全性 15
V.5 個人保護具（PPE） 17
V.6 医療および応急処置 18
V.7 衛生 19
V.8 労働者住宅 20

VI 推奨される予防措置 21

VII 資料 23

A 付録 24

付録 1 2024年9月の変更の概要 24
付録 2 2024年9月の変更に関するよくある質問 25

ディズニーの国際労働基準（ILS）について詳しく知りたい場合は、ILSプログラムマニュアルをご確認ください。

国際労働基準プログラムマニュアル



はじめに

この健康と安全補足ガイドはディズニーILSプログラムにおける健康と安全の要件の透明性を高めることを目的としています。各章は、ベンチマーク、違反例、および対応する評価の段階を設定することを目的とした指導原則から始まります。

この補足ガイドブックは、以下に焦点を当てています。

- **主要な用語及び語句**
- **ベンチマーク要件とそれに関連する評価**
- **記録や許可など、必要な文書に関する情報**
- **必要な安全手順および機器**
- **推奨される予防措置**

以下のセクションは、施設のすべてのエリア(敷地内および敷地外の雇用主が提供する住宅を含む) に適用されます。

はじめに

この章では、各ベンチマークの色分けされた評価についても紹介します。三つの評価レベルの定義は以下のとおりです。

⚠ コンプライアンス最低基準（MCS）

Disney のサプライチェーン行動規範（以下「規範」という）へ の準拠の必要レベルを下回る違反に適用されます。

❗ 深刻（Serious）

MCS 違反ではないが、迅速に対処しないと労働者の安全に重大な影響を与える可能 性のある規範違反に適用されます。

1 回の監査で 3 つ以上の「深刻」な違反が特定された場合、その「深刻」な違反がシステミックなものであれば、その「深刻」な違反は MCS 違反として評価されます。

「システミック」とは、以下のいずれかを意味します：

A. 3 つ以上の「深刻」な違反が、本ガイドブックに記載されている違反と同じカテゴリー、例えば、一般的な安全衛生、火災と緊急時の安全、危険物、機械および電気の安全性、個人保護具、 医療および応急処置、衛生、および労働者住宅から特定される場合。

B. 2 つ以上の深刻な違反が関連しており、その違反が別々の時期に存在した場合と比較して同時に 存在することにより、労働者に対する全体的なリスクが大きくなる場合。*

C. 1 つ以上の深刻な違反が、施設内のすべての労働者／エリア、または特定の種類または工程のすべての労働者／機器／エリアに関係している場合。

システミックでない違反は、深刻な違反として残ります。

■ MCS 以外（Non-MCS）

施設が規範に完全に準拠するために対処する必要のある問題が残っているが、上記の評価ほど悪質ではない違反に適用されます。



規範要件が地域の法的要件から逸脱している場合は、より厳しい基準が適用されます。違反評価は定期的に見直され、更新されます。ガイドブックに含まれている違反例は、説明を目的としたものであり、網羅的なものではないことに注意してください。Disney は、その裁 量により、違反および対応する評価を変更する権利を留保します。

**例：
- 研磨工程における粉塵除去のための換気が不十分（違反 1）であるのと同時に、同フロアで同工程に携わる労働者に防塵マスクが 支給されていない（違反 2）。
- 非常灯が機能しておらず（違反 1）、同じフロアの非常灯の点検も定期的に行われていない（違反 2）。

指導原則

労働者は安全で健康的な職場環境を提供されなければなりません。施設は、職場や雇用主が提供する住宅で、危険を防止し、労働者の危険で不健康な状態への曝露を最小限に抑えるための対策を実施する必要があります。

Disney 規範

ディズニー規範の中の健康と安全の規定：

サプライヤーは、労働者に安全で健康的な職場を提供し、作業中に発生する可能性のある怪我や事故を防止または軽減するために必要なすべての措置を講じ、適切な化学物質の管理と廃棄に関するガイダンスを提供する必要があります。少なくとも、サプライヤーは労働者に適切でアクセス可能なトイレ、飲料水、衛生的な食品の準備、保管および食事設備、個人保護具、安全な機械および工具、事故を防止および軽減するためのトレーニング、適切な温度調節および換気、ならびに十分な照明を提供する必要があります。

サプライヤーは、すべての居住ならびに寮空間が清潔で安全であり、目的に適合していることを確認する必要があります。空間が安全であり、出入りのために合理的な範囲で自由に動ける必要があります。

サプライヤーは、労働者が理解できる緊急時の準備計画と手順を作成、維持、実行し、火災、自然災害、セキュリティ、健康関連の事故など、発生する可能性のあるさまざまな緊急事態への対応手順を明確に伝える必要があります。サプライヤーは、建物が構造的に健全であるかどうかを定期的に評価する必要があります。



用語集

以下のセクションで太字で示された用語は、この用語集で定義されています。

閉鎖空間： タンクや共同格納庫など、労働者が出入りするのに十分な大きさであるが、占有用に設計されておらず、出入りの手段が制限されている場所の内部。

退出手段: 建物内の任意の場所から外部へ直接通じる、障害物のない移動経路。これには、廊下、出口、出口から建物の外への退出路などの出口アクセスの方法が含まれます。

出口: 建物の他のすべての空間から物理的に分離されている退出手段の一部。それは外部への保護された移動方法を提供します。これには、出口扉、出口通路、および出口階段が含まれますが、これらに限定されません。

占有負荷: 占有負荷は、出口 の手段が対応できると予想さ れる 1 フロアあたりの占有者 の数として定義されます。例えば、400 人の占有者と 2 つ の出口手段があるスペースの 場合、それぞれの占有負荷は 200 です。出口扉、出口経路、および出口階段の最小サ イズは、占有負荷に基づいています。

危険物: 危険物とは、労働者、財産、または環境に安全衛生上の危険をもたらす液体、固体、および気体です。それらには、毒性、腐食性、可燃性、引火性、反応性、または爆発性の物質が含まれます。これらの物質は、取り扱い、使用、保管、輸送、廃棄の際の労働者と環境へのリスクを最小限に抑えるために安全に使用する必要があります。

GHS：国連の化学品の分類および表示に関する世界調和システムは、危険物の種類による化学品の分類に取り組み、ラベルや安全データシートを含むハザードコミュニケーション要素を調和させるために国連によって作成された国際システムです。

安全データシート（SDS）： SDS は、化学物質に関する詳細情報を提供し、化学物質 を取り扱うすべての労働者が、化学物質を安全に使用、取り扱い、保管するために必 要な危険情報を確実に入手できるようにします。提供される情報には、物理データ（引 火点や蒸気圧など）、物理的および健康上の危険、応急処置、必要な個人保護具、およびこぼれや漏れの処理方法が含まれます。

熱間加工: 可燃物に引火する可能性のある裸火または熱源を使用する作業。熱間加工の例としては、溶接、切断、ろう付け、パイプはんだ付け、金属研削などがあります。
すべての熱間加工は、熱間加工管理に必要な予防措置について訓練を受けた職場の許可された個人によって承認される必要があります。この個人には、熱間加工が行われる作業領域から可燃物が取り除かれ、壁と床の開口部が覆われ、可燃性の床が耐火材料で覆われ、消火器が容易に入手でき、火災監視が提供され、その他の必要な予防措置が取られたときに許可を与える責任があります。

有害危険エネルギーの管理（ロックアウト/タグアウト）： 危険なエネルギーが適切に管理されていない場合、機械や設備の作業またはメンテナンスを行う労働者は、重傷または死亡にさらされる可能性があります。
ロックアウト/タグアウト手順では、適切なロックおよび/またはタグをエネルギー遮断装置（スイッチやバルブなど）に取り付け、作業を開始する前に機械と機器の電源を切り、ロックアウト/タグアウト手順を実行するすべての作業者をトレーニングする必要があります。ロックアウト/タグアウトが行われるエリアの労働者には、意識向上のためのトレーニングを提供する必要があります。

危険エネルギー: 機械および装置の整備および整備中に、蓄積されたエネルギー（電気、機械、油圧、空気圧、化学、熱など）の予期しない起動または放出により、労働者が重傷を負ったり死亡する可能性があります。

救急箱: 救急箱には、包帯、消毒剤、はさみ、手袋、手指消毒剤など、負傷した労働者に応急処置を提供するために 不可欠な備品が含まれています。救急箱の内容の要件は、ANSI/ISEA 規格 Z308.1 に記載 されています。

住宅（寮）： 雇用主が労働者のために提供または手配した居住用宿泊施設。労働者住宅は通常、寮としても知られる、共有の宿泊施設であり、寝室ごとに 2 人以上の労働者がおり、共用のトイレと洗浄設備があります。

衛生的: 生物学的物質（細菌およびカビ）、昆虫または害虫の蔓延、ゴミの蓄積、および吸入、摂取、または皮膚接触によって病気を引き起こす可能性のある化学的汚染物質がないこと。

労働者管理安全衛生委員会：

- 職場の安全衛生の危険を特定および管理するための会社の取り組みを改善する効果的な方法です。
- 事故調査チーム、作業エリア検査の実施、安全な作業手順およびその他の危険管理の開発と実施に労働者を参加させます。
- 会社が安全衛生の目標の達成を追跡するのに役立ちます。

主要なコンプライアンスベンチマーク

一般的な安全衛生

MCS | 深刻 | MCS 以外

危険性（ハザード）評価

職業上の危険に定期的にさらされている労働者は、適用される法律および規制によって決定された頻度または少なくとも以下の状況で健康診断を提供され、受けなければなりません。現地法かディズニーの要件のいずれか厳しい方を適用されます。:

- 危険な作業が割り当てられる前
- 危険な作業を割り当てられている間、定期的に
- 危険性のない作業に再割り当てされたとき
- 辞職または雇用契約終了時
- 労働者の要請に応じて

労働安全衛生（OHS）の危険性を特定するための評価は、適用され る法的要件への継続的な準拠を確実にするために定期的に実施する 必要があります。（一般的な OHS 評価の例は、この章の「予防措置」項にあります。）

トレーニング&コミュニケーション

採用時、新しい作業への割り当て時、およびその後は毎年、すべての労働者と監督者に安全衛生トレーニングを提供する必要があります。

文書化

安全衛生の危険性評価と作業エリア検査の記録を保持する必要があります。

内部および第三者の監査と規制当局によるコンプライアンス検査の記録を保持する必要があります。

危険管理改善の文書化された証拠を含む、安全衛生の是正および予防措置計画を保持する必要があります。

安全衛生トレーニングへの参加と知識および/または技能の評価（クイズ、テスト、技能の実演）の記録を保持する必要があります。

会社の安全衛生の方針と手順の順守、および適用される法的要件の順守に関する自己評価およびその他の評価の記録を保持する必要があります。

作業関連の事故、怪我、病気の記録、事故調査報告書およびそれらの根本原因を排除するために取られた措置のコピーを保持する必要があります。

主要なコンプライアンスベンチマーク

一般的な安全衛生

MCS | 深刻 | MCS 以外

作業環境

- 雇用主が提供する**住宅**を含む施設のすべてのエリアは、この章で概説されている安全衛生要件に準拠し、占有者の安全に関するすべての法律と規制を満たしている必要があります。
- 職場の換気は、空気中の汚染物質のレベル（または濃度）、温度、騒音、およびその他の環境要因を、適用される法律および規制で規定されている許容範囲内に制御するために維持する必要があります。
- 照明は、適用される法規制で義務付けられている眼精疲労や労働災害を防止するために必要なレベルで、また労働者が仕事を効果的に遂行するために必要なレベルで提供する必要があります。
- 適切な管理を実現可能に維持できない場合は、労働者の健康への悪影響を最小限に抑えるために適切な手順を実施する必要があります。例えば、高温および／または多湿の環境で作業する人には、涼しい日陰の場所で頻繁に休憩を取り、十分な飲料水を提供する必要があります。

作業環境

- 足場、中二階、高所作業車などの高所作業所には、落下を防ぐためのガードレールが必要です。ガードレールが設置できない場合、そのような場所で働く労働者には適切な落下保護装置を提供する必要があります。
- **閉鎖空間**作業はリスクについて評価する必要があり、適切な管理措置を労働者に明確に伝達し、適用される法律および規制の要求に応じて実施する必要があります（例えば、**閉鎖空間**への立ち入り手順、許可手順、個人保護具）。

主要なコンプライアンスベンチマーク

火災と緊急時の安全

▲ MCS | ! 深刻 | ■ MCS 以外

緊急時の手順

! 潜在的な緊急事態に基づいた書面による避難手順を確立する必要があります。

! 新規採用者を含むすべての労働者は、理解できる言語で継続的に緊急避難手順の訓練を受ける必要があります。

! 避難手順と地図は、すべての占有場所に目立つように掲示され、労働者が理解できる言語で書かれている必要があります。

! 避難マップには、一次**出口**と二次**出口**の両方の順路、消火器と警報ポイントの場所、および建物の外にある指定された集合場所を示す必要があります。

避難訓練

▲ 避難訓練は、半年に一度、施設全体で実施する必要があります。

▲ 避難訓練には以下のものが含まれます。

- すべての労働者
- すべての作業シフト、および
- 敷地内外の雇用主が提供する**住宅**を含む、施設のすべてのエリア

注：大規模な施設と複数のシフトがある施設では、すべての作業員が確実に含まれるように、異なる時間に訓練を実施する必要がある場合があります。

! 障害のある労働者や特別支援が必要な労働者は、訓練中や実際の緊急時に避難することを支援するパートナーを事前に割り当てる必要があります。

主要なコンプライアンスベンチマーク

火災と緊急時の安全

MCS | 深刻 | MCS 以外

退出手段

退出手段と階段は、常に完全にアクセス可能であり、出口を妨害したり、火災の危険をもたらす可能性のある破片、散乱物、機器、および保管場所がない必要があります。

出口経路のすべての手段（通路、廊下、**出口**階段、スロープなど）に非常灯を設置し、機能しており、毎月検査し、バッテリーまたは予備発電機のいずれかで電力を供給する必要があります。

出口扉と**出口**経路の最小幅は、地域の防火規制または次の表[1]の幅のより厳しい方の基準を満たす必要があります。

出口扉と出口経路の最小幅	
出口扉または出口経路ごとの占有負荷	最小幅
1 – 160 人	0.8 メートル（32 インチ）
161 – 200	1.0 メートル（40 インチ）
201 – 300	1.5 メートル（60 インチ）
301 – 400	2.0 メートル（80 インチ）
401 以上	占有負荷×5.1mm（0.2 インチ）

退出手段

すべての**出口**階段の最小幅は、地域の防火規制または次の表[2]の幅のより厳しい方の基準を満たす必要があります。

出口階段の最小幅	
出口階段ごとの占有負荷	最小幅
1 – 50 人	0.9 メートル（36 インチ）
51 – 150	1.1 メートル（44 インチ）
151 – 200	1.5 メートル（60 インチ）
201 – 300	2.3 メートル（90 インチ）
301 – 400	3 メートル（120 インチ）
401 以上	占有負荷×7.6mm（0.3 インチ）

出口経路のすべての手段は、最も近い**出口**への移動方向を示すために、線を引き、矢印と標識で示す必要があります。

1 International Fire Code (2021), Section 1005 “Means of Egress Sizing”

2 International Fire Code (2021), Section 1005 “Means of Egress Sizing”

主要なコンプライアンスベンチマーク

火災と緊急時の安全

▲ MCS | ● 深刻 | ■ MCS 以外

非常口及び出口標識

▲ **出口**扉には次が必要です。

- 残業時間を含む勤務時間中、つまり施設に労働者がいるときはいつでも、障害物がなく、解錠されていること
- 1 回の動作で開くこと（例えば、パニックバーを押す、ドアノブを回す、ドアハンドルを押し下げるなど）。ドアを開けるために鍵、スライドボルト、および/またはセキュリティコードを使用することは許可しない、および
- 出口階段または建物の外部に直接開くこと（つまり、別の部屋やエリア、または別の建物に開くことはない）

▲ 施設には、以下[3]に詳述するように、占有者数に基づいて最小数の**出口**が必要です。

出口の最小数	
1階あたりの占有者数	階層ごとの出口
1 - 500人	2
501 - 1,000	3
1,001以上	4

3 International Fire Code (2021), Section 1006 “Numbers of Exits and Exit Access Doorways”

非常口及び出口標識

● **出口**扉は、避難方向（つまり、外側）に開き、側面が蝶番式で固定されている必要があります（例えば、**出口**扉は回転式または引き戸であってはならない）。

● 目に見える照明付きの標識を各**出口**に掲示する必要があります。

● **出口**は可能な限り離れている必要があります（例えば、2 つの**出口**があるスペースの場合、**出口**はスペースの反対側にある必要があります）。

● 自動スプリンクラーシステムのない施設の場合、人が最も近い**出口** に到達するための最大移動距離が 61 メートル（200 フィート）を超えないように、十分な**出口**が利用可能である必要があります。[4]

緊急装置

● 火災警報器は、適用される法律および規制で要求される通りに、施設および雇用主が提供する**住宅**のすべてのエリアからはっきりと聞こえ、見える必要があります。

● 火災警報制御パネル、自動消火スプリンクラー、煙探知器、および消火器を適用される法律や規制の要求に応じて設置する必要があります。

4 International Fire Code (2021), Section 1017 “Exit Access Travel Distance”

主要なコンプライアンスベンチマーク

火災と緊急時の安全

MCS | 深刻 | MCS 以外

緊急装置

- 消火器までの最大移動距離は、23 メートル（75 フィート）[5]または 適用される法律や規制で要求される距離のいずれか短い方を超える ことはできません。

- すべての**退出手段**、**出口**部分、警報、および火災検知および抑制システムの検査は、毎月実行する必要があります。検査プログラムには以下を含める必要がありますが、これらに限定されません。
  - すべての**出口**部分と緊急装置のリスト
  - 各項目について実施する点検・保守作業のチェックリスト
  - 検査結果に基づく整備スケジュール
  - 法的に必要な火災検査証明書の保持
  - 日付と実施された作業を含む検査および整備の記録（目視検査、機能テスト、実施された整備または修理の種類など）、および作業を実施した個人の名前

- スプリンクラーシステム部品のテストとメンテナンスは、製造元が推奨する頻度で、または適用される法規制のいずれか厳しい方に従って実行する必要があります。



5 International Fire Code (2021), Section 906.3 “Portable Fire Extinguishers: Size and Distribution”

主要なコンプライアンスベンチマーク

危険物

MCS | 深刻 | MCS 以外

許可とライセンス

危険物の保管、取り扱い、処理、および廃棄に関する許可、ライセンス、登録、および認証は、適用される法律および規制の要求に応じて取得および維持する必要があります。

トレーニング&コミュニケーション

危険物を扱う労働者は、そのような物質を安全に保管、取り扱い、輸送、および使用する方法についてトレーニングを受ける必要があります。これには、初回および再教育のトレーニングと、必要に応じて該当する認定が含まれます。

危険管理

適用される法律および規制に従って、**危険物**の流出、漏出、および労働者への曝露を管理するための緊急対応手順を確立する必要があります。

危険管理

危険物は適切に保管する必要があります。これには、次のものが含まれます。

- 塗料、溶剤、おがくず、圧縮ガスなどの可燃性および引火性の物質は、裸火またはその他の発火源から離れた部屋および保管場所で承認された容器に保管する必要があります。
- 化学物質は、特定の種類の化学物質での使用が承認された容器にのみ保管されます。
- 原材料は危険物区分ごとに分けられています（例えば、漏れやこぼれが発生した場合に有毒または可燃性の蒸気が放出されるのを防ぐために、有機酸を可燃物から分離する必要があります）。
- 漏れやこぼれが発生した場合に、環境への放出や配合が禁止されている物質が混合するのを防止するために、二次格納容器が設置されています。

職場の原材料のリスト、それらがどこにどのように保管されているか、および存在する各原材料の量を含む**危険物**の最新のリストを保持する必要があります。

主要なコンプライアンスベンチマーク

危険物

MCS | 深刻 | MCS 以外

危険管理	■	**危険物**のリストは、適用される法律および規制によって要求される場合、地域の緊急対応当局と共有する必要があります。
	■	施設内のすべての危険物について、**GHS**[6]**準拠の安全データシート**（SDS）が利用可能である必要があります。
	■	**SDS** は現地の言語で、労働者が理解できる言語である必要があり、化学物質が保管または使用されているすべてのエリアの労働者がすぐにアクセスできる必要があります。

危険管理	■	**危険物**のすべての容器には、現地の言語および労働者が理解できる言語で **GHS** 準拠の危険ラベルを貼付する必要があります。ラベルには次のものを含める必要があります。 – 危険度を示す注意喚起語（例：危険、警告など） – 物質的な危険の種類を説明する危険のピクトグラム – メーカー情報 – 注意書きと応急処置の指示 – 危険性に関する記述（例えば、「非常に引火性が高いガス」または「摂取すると有毒」）、および – 製品名または化学名

6 United Nations Globally Harmonized System (GHS) of Classification and Labelling of Chemicals

主要なコンプライアンスベンチマーク

機械および電気の安全性

MCS | 深刻 | MCS 以外

許可とライセンス

- 深刻 機械および電気システムの許可、ライセンス、登録、および認証は、適用される法律および規制の要求に応じて取得および保持する必要があります。
- 深刻 特定の機能（例：溶接、機械、設備、車両の操作、電気機器やシステムの設置、整備、修理）を実行するために免許または認定が必要な場合、労働者は、適用される法律および規制に応じて、適切なトレーニング、免許、および/または認定を受ける必要があります 。

トレーニング&コミュニケーション

- MCS 以外 機械および電気機器には、危険性および必要な予防措置を示す標識およびラベルを付ける必要があります。
- MCS 以外 すべての機械および電気機器の標識とラベルは、現地の言語と労働者が理解できる言語である必要があります。
- MCS 以外 すべての機械および電気機器の安全な操作手順は、最新であり、機械および電気機器を操作する作業者が容易に入手可能である必要があります。
- MCS 以外 機械および電気機器の安全な操作手順はすべて、現地の言語および 作業者が理解できる言語である必要があります。

機械の安全性

- 深刻 必要な機械の安全装置は、安全に設置され、良好な動作状態にあり、特定された危険から効果的に保護され、メーカーの指示または推奨に従って適切に使用および整備され、すべての勤務シフトの開始時に適切な動作がテストされている必要があります。
- 深刻 溶接、トーチ切断、ろう付け、はんだ付けなどのリスクの高い工程は、「**熱間加工**」許可システムなどの適切な安全対策を使用して実行する必要があります。
- 深刻 すべての機械の安全上の危険について確認する必要があり、特定された危険から労働者を保護するために安全装置を提供する必要があります。安全装置を必要とする危険の種類には、以下が含まれますが、これらに限定されません。
  - 高温の表面
  - 作動中のニップポイントを含む回転部品
  - 往復運動と横運動
  - 切断、打ち抜き、せん断、および曲げ加工
- MCS 以外 検査、機能テスト、定期整備および修理を含むがこれらに限定されない、すべての機械および装置の保護に関する詳細な予防整備記録を保持する必要があります。

主要なコンプライアンスベンチマーク

機械および電気の安全性

▲ MCS | ! 深刻 | ■ MCS 以外

電気の安全性

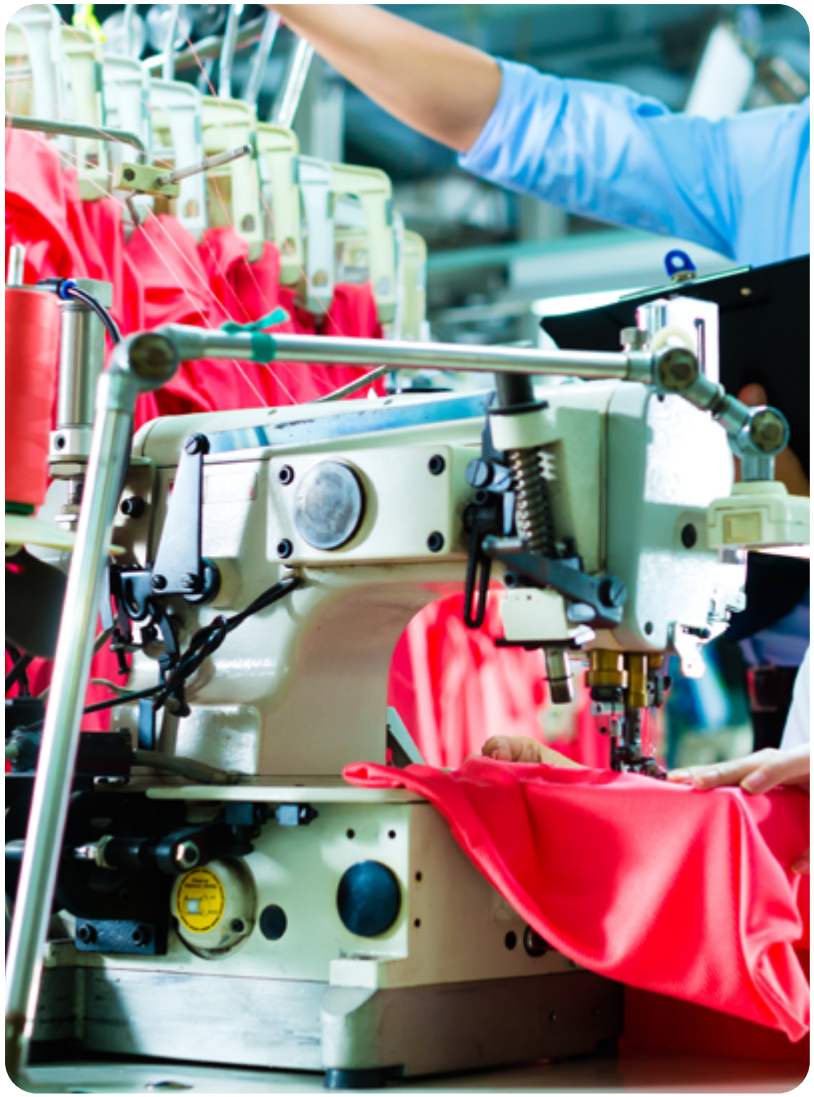
▲ 湿気の多い場所または濡れた場所にある電気配線および機器は、適用される法律および規制に従って、そのような場所での使用が承認されている必要があります。

! 適用される法律および規制に従って、露出した充電部との接触を防ぐために、すべての電気配線および機器を覆い、絶縁する必要があります。

■ 電気機器および設備は、定期検査および予防保守のプログラムを通じて、少なくとも年に 1 回、または設計者もしくは製造業者が推奨する頻度のいずれか高い頻度で、安全な状態に整備する必要があります。

ロックアウト/タグアウト

! 予期しない通電、**危険エネルギー**の放出、または修理および整備作業中の機械設備の始動から労働者を保護するために、**ロックアウト/タグアウト**手順を整備し、それに従う必要があります。



主要なコンプライアンスベンチマーク

個人保護具（PPE）

MCS | 深刻 | MCS 以外

個人保護具	!	個人保護具（PPE）は、労働者に無料で提供、整備、交換する必要があります。
	!	労働者には、関連する危険に適した PPE を提供する必要があります。
	!	労働者は、場所固有の危険から労働者の安全衛生を保護するため に、適用法で使用が要求されている場合は常に PPE を着用する必要があります。
	■	PPE は、使用しないときは適切に保管し、使用する前に検査し、継続的な有効性を確保するために整備し、必要に応じて交換する必要があります。
	■	PPE は、危険への曝露を最小限に抑えるために、作業者に適切にフィットする必要があります。
トレーニング&コミュニケーション	!	労働者は、PPE を適切に使用、保管、および整備するためのトレー ニングを受ける必要があります。
	!	PPE の使用が必要な場所では、危険性と必要な PPE の種類に関する 掲示と標識が、労働者が理解できる言語で利用可能でなければなりません。



主要なコンプライアンスベンチマーク

医療および応急処置

MCS | 深刻 | MCS 以外

緊急対応

- 深刻: 適用される法律および規制の要求に応じて、十分な数の資格を持つ医療従業員が勤務している必要があります。
- MCS 以外: 緊急医療を必要とする労働者は、トレーニングを受けた医療専門家による適切なケアを適時に受けなければなりません。
- MCS 以外: 負傷した労働者や病気の労働者がすぐに専門的な医療を受けられない場合は、トレーニングを受けた施設の応急処置担当者が適時に応急処置を行う必要があります。

応急処置装置

- 深刻: **危険物**が目、顔、または体にさらされる危険性がある場合は、緊急洗眼器およびシャワー装置が利用可能で、常に適切に機能するように維持する必要があります。
- 深刻: 作業エリアの任意の場所から洗眼器およびシャワー装置までの移動 距離は、緊急時に 15 メートル (55 フィート) または 10 秒の移動時間を超えてはなりません[7]。
- MCS 以外: **救急箱**は、各エリアの危険に対して適切な備品が揃っている必要があり、労働者の**住居**を含むすべてのエリアで容易に入手可能でなくてはなりません。

応急処置装置

- MCS 以外: **救急箱**は、少なくとも毎月、または必要に応じてより頻繁に検査および新調して、必要な備品が十分にあり、有効期限が切れていないことを確認する必要があります。

トレーニング&コミュニケーション

- 深刻: 応急処置のトレーニングは、緊急時の応急処置を担当する労働者に 少なくとも 3 年ごとに提供する必要があります。トレーニングを受けた十分な人数の施設の応急処置要員を継続的に確保するために、トレーニングをより頻繁に実施する必要がある場合もあります。
- 深刻: **危険物**を取り扱う労働者は、洗眼器とシャワー装置の場所と適切な使用法を含む緊急時の手順についてトレーニングを受ける必要があります。
- MCS 以外: 緊急電話番号は、すべての労働者に伝達され、労働者が理解できる言語で職場および労働者の**住居**全体に目に見える形で掲示される必要があります (例：電話番号が記載されたラベルが施設のすべての電話に貼付されている)。
- MCS 以外: 緊急装置の看板は、労働者が理解する言語でなければなりません。

7 American National Standards Institute (ANSI) / International Safety Equipment Association (ISEA) Z358.1 (2014) “Emergency Eyewash and Shower Equipment”

主要なコンプライアンスベンチマーク

衛生

MCS | 深刻 | MCS 以外

トイレ設備

- 十分な数（15 人の労働者ごとに少なくとも 1 つのトイレ）の男女別のトイレ設備を労働者に提供しなければなりません。可能な限り、個室トイレも提供する必要があります。
- 職場および雇用主が提供する**住宅**のトイレ設備は、換気がよく、明るく、水道があり（利用可能な場合はお湯を含む）、石鹸、トイレットペーパー、ペーパータオル、またはその他の手乾燥装置を備えている必要があります。
- トイレ設備は衛生状態を維持し、1 日 2 回（または必要に応じてよ り頻繁に）清掃し、必要に応じて備品を補充する必要があります。

飲料水

- 職場や雇用主が提供する住宅で労働者が、安全で飲用に適した飲料水を、容易に利用可能で、いつでも飲むことができる必要があります。
- **飲料水**の定期検査は、安全な飲料水に関する地域の規制要件を満たしていることを確認するために、少なくとも年に 1 回実施する必要 があります。

食事と食事の準備

- 衛生状態を維持するために、すべての食品保管エリア、食品調理エリア、および労働者の食事エリアは、頻繁に（例：毎食の前後に）点検および清掃する必要があります。
- 食品取扱者、調理人、および給仕は、必要な健康診断を受け、適用される法律および規制で要求される食品安全のトレーニングと認定を受ける必要があります。
- 適用される法律および規制によって要求される、食堂/キッチンのための必要な証明書およびライセンスを全て取得および保持する必要があります。

主要なコンプライアンスベンチマーク

労働者住宅

⚠ MCS | ! 深刻 | ■ MCS 以外

労働者住宅

⚠ 雇用主が提供する**住宅**は、生産プロセス、倉庫、または化学薬品保管エリアがある建物から分離する必要があります。

! 雇用主が提供する**住宅**は安全・安心でなければなりません。これには以下が含まれますが、これらに限定されません。

- 合理的なレベルのプライバシー
- 労働者ごとに別々のベッド（異なるシフトの労働者によるベッドの共有、所謂「ホットベッド」は許可されていません）
- ベッドは 2 段以下の配置
- 男女別々の宿泊施設（寝室とトイレの両方）
- 常に利用可能な飲料水の適切な供給
- すべての気象条件で十分な空気の動きを確保するための、自然および機械による換気

労働者住宅

■ 雇用主が提供する**住宅**は、適度なレベルの**衛生状態**と快適さを備えている必要があります。これには以下が含まれますが、これらに限定されません。

- 十分な自然および人工照明
- 各労働者のための適度な広さの個人用スペースと個人用収納
- 清潔で衛生的なトイレと洗浄設備

推奨される予防措置

方針と手順

方針

次の正式な書面による方針を作成します。

- 必要なすべての建物の建設、占有および設備検査、許可、認証、およびライセンスの取得を含む、該当する安全衛生に関する法律および規制を順守します。
- 安全で健康的な職場環境、雇用主が提供する**住宅**、輸送、およびフードサービスを維持します。
- 業務で負傷したり、業務上疾病を発症した労働者のために、緊急時の応急処置ならびに完全な回復と職場復帰に必要な継続的医療および関連サービスを提供します。
- 労働者の基本的なニーズ（トイレ設備や飲料水など）へのアクセスが制限されていないことを確認します。
- 労働者に、作業の安全衛生危険事象、および怪我や病気を防ぐために必要な予防措置に関する情報とトレーニングを継続的に提供します。

手順

上記のコンプライアンスベンチマークに加えて、次のような正式な手順書を作成して実施します。

- 適用される安全衛生に関する法律および規制を定期的に特定、追跡、および順守します。
- 労働安全衛生（OHS）の危険事象を特定するための評価を定期的に実施して、適用される法的要件への継続的な順守を確保します。評価の種類は、エリアの作業内容に適している必要があり、次のものを含めることができます。
  - 作業安全分析。作業を個々のタスクに分割して、各タスクが提示する危険と、危険を排除または制御する方法を特定する
  - ほこり、蒸気、ガス、騒音、電離および非電離放射線などの健康被害への曝露を測定するための産業**衛生**（労働**衛生**）調査
- 新しい機器や化学物質を確認して、使用を開始する前に管理が必要な安全衛生上の危険を特定します。
- 機械の安全装置、排気およびその他の危機管理のための予防整備を実施する。
- 法的要件、顧客の要件、労働者の要請、および安全衛生危険事象に関する職務固有の評価に基づいて、トレーニングのニーズを特定し、適切な安全衛生トレーニングを提供します。
- 工学的手段では危険を制御できない場合は、必要に応じて個人保護具を提供、整備、および交換します。
- 再発を防ぐための適切な措置を講じることを含め、すべての作業関連の怪我や病気の報告と調査を徹底します。
- 脅迫や報復を恐れることなく、安全衛生上の懸念を報告したり、危険管理の提案をしたりするよう労働者に奨励します。
- 視覚的および非破壊検査方法（超音波検査、電気抵抗率、X 線検査など）を 使用して、すべての建物の構造的健全性検査を実行します。

推奨される予防措置

説明責任と責任

- 方針目標を達成するために上級管理職に説明責任を割り当て、手順を効果的に実施するために経営陣およびその他の従業員を割り当てます。
- 方針目標を達成し、安全衛生を管理するためのシステムがどのように機能しているかを監督するための全体的な責任と説明責任を持つ上級管理職を割り当てます。
- 管理者、監督者、および労働者が明確に定義された役割と責任を持っていることを確認します。例えば、労働者に適切な個人保護具が必要な場合に与えられ、その装置の使用方法を理解し、一貫して使用することを保証する責任があります。
- 経営陣が労働者からの提案を考慮に入れ、適宜に懸念に対応するようにします。



トレーニング&コミュニケーション

- 病気や怪我につながる可能性のある職場の安全衛生のリスクと方針について、すべての管理者、監督者、労働者に初回および継続的なトレーニングを提供します。
- 特定の手順の実施を担当する従業員に詳細なトレーニングを提供します。例えば、誤って通電して怪我や死亡事故を引き起こす可能性のある機器の修理や整備を行う労働者は、自分自身や周りの人を保護するために**ロックアウト/タグアウト**手順を知っている必要があります。
- 会社の安全衛生方針と現地の法律および規制を掲示し、労働者、現場の請負業者、訪問者がそれらを現地の言語と労働者が理解できる言語の両方で見ることができるようにします。読むのが困難な労働者には、ピクトグラムや写真が役立ちます。例えば、絵や記号は、騒音や化学物質などの職場の危険性や、必要な保護具の種類を伝えるのに役立ちます。
- 労働者が安全衛生に関する問題を報告し、職場の安全衛生慣行を改善するための提案をするように促します。

文書化

- 適用されるすべての安全衛生に関する法律、規則、および Disney の要件の 記録を保持します。
- **安全衛生委員会**の議事録、取り組み事項、および出席記録を保持します。

監視と継続的改善

- 有資格者を使って、定期的な内部または第三者の監査と評価を実施します。
- 重要業績評価指標（KPI）を設定し、進捗状況を測定します。KPI の例には、根本原因について調査された労働災害と事故の割合、時間通りに完了した是正措置の数、同じ原因に起因する事故と怪我の数、および作業場から安全に 目標時間内に避難できる労働者の割合が含まれます。
- 定期的な労働者アンケートを実施して、職場の状況や慣行にどの程度満足しているかを測定し、より安全かつ効率的に仕事をするのに何が役立つかを理解します。
- 定期的に上級管理職による見直しを実施して、システムの有効性を評価し、方針と手順を更新します。
- 問題が再発しないように、特定されたそれぞれの根本原因に対処するために、是正措置と予防措置の両方を実行します。例えば、施設はまず夜勤労働者に適切な安全衛生慣行について再トレーニングし（是正措置）、次に夜間の生産割当と作業スケジュールを見直して、負傷の原因としての疲れや速すぎる作業を排除します（予防措置）。
- 是正措置および予防措置について、タスクの所有者、中間目標、および完了日を決定します。
- 初回および必要に応じ再教育トレーニングを通じて、リスクに対処するために定められた新しい、または改訂された手順を労働者が確実に理解するようにします。
- 手順の変更とそれをサポートするトレーニングが望ましい結果を生み出しているかどうかを測定します。

資料

Disney 資料

Disney International Labor Standards Program Manual

欧州労働安全衛生機関

http://osha.europa.eu/en

International Labour Organization (ILO)

労働安全衛生

労働安全衛生マネジメントシステムガイドライン（ILO-OSH 2001）

International Organization for Standardization (ISO)

ISO 45001 – 労働安全衛生

Social Accountability International (SAI)

SA8000 規格

United States Occupational Safety and Health Administration (OSHA)

安全衛生項目

付録 1

2024年9月の変更の概要



ディズニー国際労働基準ガイドブックの「健康と安全」の章が更新され、システミック、システミックでない、深刻な違反に関する情報が追加されるとともに、危険性（ハザード）評価ベンチマークに関して明確化されました。

以下は、「健康と安全」章の最新版における更新の要約です。

2024年9月の変更

1.「健康と安全」の違反に対する「深刻」評価（（ガイドブックの 4 ページ目）

「深刻」は、MCS 違反ではないが、迅速に対処しないと労働者の安全に重大な影響を与える可能性のある規範違反に適用されます。

1 回の監査で 3 つ以上の「深刻」な違反が特定された場合、その「深刻」な違反がシステミック なものであれば、その「深刻」な違反は MCS 違反として評価されます。

「システミック」とは、以下のいずれかを意味します：

A. 3 つ以上の「深刻」な違反が、本ガイドブックに記載されている違反と同じカテゴリー、例えば、一般的な安全衛生、火災と緊急時の安全、危険物、機械および電気の安全性、個 人保護具、医療および応急処置、衛生、および労働者住宅から特定される場合。

B. 2 つ以上の深刻な違反が関連しており、その違反が別々の時期に存在した場合と比較して 同時に存在することにより、労働者に対する全体的なリスクが大きくなる場合。

C. 1 つ以上の深刻な違反が、施設内のすべての労働者／エリア、または特定の種類または工程のすべての労働者／機器／エリアに関係している場合。

システミックでない違反は、深刻な違反として残ります。

2. 危険性（ハザード）評価ベンチマーク（ガイドブックの 7 ページ目）

- ガイドブックに記載されている状況と現地の法律／規制との間に相違がある場合の適用を明確にするため、危険性（ハザード）評価の基準に新たな文章（以下の*イタリック*体で示されている）が追加されます：
  - 「職業上の危険に定期的にさらされている労働者は、適用される法律および規制によって決定された頻度または少なくとも以下の状況で健康診断を提供され、受けなければなりません。*現地法かディズニーの要件のいずれか厳しい方が適用されます。*」

付録 2

2024年9月の変更に関するよくある質問

1 なぜディズニーはガイドブックの健康と安全の章を更新するのですか?

ディズニーは、ILS プログラムの要件とその実施方法を定期的に見直しています。今回の更新の主な焦点は深刻な違反が MCS 違反と評価される基準です。:

- これまでは、1回の監査で 3 つ以上の深刻な違反が確認された場合、それぞれ MCS 違反と評価され、該当する追跡(後続)監査の前に健康と安全に関するすべての深刻な違反の是正が求め られました。
- ガイドブックの更新の下、違反はより個別に評価されます。1 回の監査において 3 つまたは3つ 以上の深刻な違反が発見された場合、システミックな違反である各深刻な違反は MCS 違反として評価され、システミックでない深刻な違反は MCS 違反として評価されません。この調整によ り、労働者の健康と安全に対する最大のリスクをもたらす違反が MCS 違反として適切に評価さ れる一方、システミックでない深刻な違反については引き続き改善を促します。

2 一部の深刻な違反を MCS 違反として評価することに関する更新に加え、深刻なベンチマークの数は増えましたか?

いいえ。ディズニーは新たな深刻なベンチマークを追加していません。

3 システミックな深刻な違反(MCS 違反と評価されたもの)を是正するにはどうすればよいですか?

システミックな深刻な違反を是正するためには、確認された違反を是正するための対応を取らなければ なりません。追跡/後続監査では、実施された是正措置が審査され、システミックな深刻な違反が 3 つ以 上あるかどうかが判断されます。追跡/後続監査レポートで指摘された深刻な違反が 3 つ未満である場合、または違反がシステミックでない場合、それらは MCS 違反として評価されません。例えば:

- シナリオ 1:是正が行われ、追跡/後続監査レポートに指摘された深刻な違反が 3 つ未満であ る。
- シナリオ 2:追跡/後続監査レポートに指摘された深刻な違反がまだ 3 つ以上あるが、システミ ックな深刻な違反はすべて是正されている。

4 ディズニーは、施設が健康と安全の違反により MCS を満たしていないと指摘された監査後のデスクトッ プ監査を受け入れますか?

いいえ。前回の監査で MCS 違反が確認された場合、その後の監査は実地で実施されなければなりませ ん。

5 更新の発効日はどのように適用されますか?

発効日 2024 年 9 月 1 日は、監査がいつ実施されたかに関わらず、ディズニーが審査するすべての ILS 監査に更新された基準が適用される日を示します。これには、ライセンシー/ベンダーから提出された監査レポートおよびディズニーが委託した監査レポートが含まれます。したがって、2024 年 9 月 1 日以降にディズニーが審査した監査レポートは、更新された基準が適用されます。

6 すでに ILS 監査レポートが提出され、2024 年 9 月 1 日より前に審査された場合、更新に基づいて結 果を修正することは可能ですか?

いいえ。すでに ILS 監査レポートが提出され、2024 年 9 月 1 日より前に審査された場合、更新された基準に基づいて結果を修正することはできません。ただし、この更新は、2024 年 9 月 1 日以降にディ ズニーが審査するすべての ILS 監査レポートに適用されます。検討に値する特別なケースや特定の状況が ある場合は、ILS 担当者にお問い合わせください。

付録 2

2024年9月の変更に関するよくある質問

7 システミックな違反の例を教えてください。

A. **3 つ** または3つ以上の深刻な違反が同じカテゴリーに含まれます。健康と安全ガイドには 8 つのカテ ゴリーがあります。以下は、「火災と緊急時の安全」のカテゴリーに含まれる 3 つの深刻な違反 で、全体としてシステミックな違反になる例です。

- 非常灯が定期的に点検されていない。
- 消火器が機能していない。
- 出口ドアが避難経路の方向に開いていない。

B. **2 つ** または 2 つ以上の深刻な違反が関連しており、違反が同時に存在するため、労働者に対する全 体的なリ スクは、違反が別々の時期に存在した場合よりも大きくなります。例えば:

- 研磨工程で粉塵を除去するための換気が不十分 (違反 1)
- 同じフロアでこの工程に携わる労働者に防塵マスクが提供されていない (違反 2)。

C. **1 つ** または 1 つ以上の深刻な違反が、施設内のすべての労働者／エリア、または特定の種類または工程のすべての労働者／設備／エリアに関与している。例えば:

- 2 階で化学物質の蒸気に接触するスプレー塗装工程のどの作業者にも、適切なマスクもしくは空 気清浄レスピレーターが提供されていない場合、それはシステミックな違反とみなされる。この 例では、スプレー塗装工程に携わるすべての労働者が影響を受けるため、システミックな違反と なる。

8 監査レポートに 3 つ以上の深刻な違反が指摘された場合、建築物および/または消防証明書がないことは MCS 違反と評価されますか?

はい、建築物および/または消防証明書がないことはシステミックな違反であり、監査レポートに 3 つま たは3つ以上の深刻な違反が指摘された場合、MCS 違反と評価されます。この違反は、建物や施設のす べてのエリアに影響を及ぼすため、システミックな違反となります。

9 更新された方針は施設に周知されますか?

私たちは、ライセンシーおよびベンダーが使用する施設に更新されたポリシーを伝えることを期待しています。その間、ディズニーによって施設向けのトレーニングセッションが予定されている場合は、健康と安全に関する更新が含まれます。



The Walt Disney Company

国際労働基準

健康と安全

補足ガイド

ILSガイドブックの他の章にアクセスするには、ここをクリックしてください。

2026年3月改訂